

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、本日（26日）07時31分にごく小規模な噴火が発生しました。本日午前、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は鹿児島県の協力により上空から調査を実施しました。新燃岳火口内の S15 噴気孔より噴火していると思われます。

新燃岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

○ 1 月 26 日の活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3、図 4）

新燃岳では本日（26日）07時31分にごく小規模な噴火が発生し、14時現在も継続しています。灰白色（火山灰混じり）の噴煙が、火口縁上 200m の高さで南東へ流れています。

本日（26日）午前、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て行った上空からの調査では、火口内は、噴煙におおわれて不明瞭でしたが、火口内の S15 噴気孔から噴煙が噴出しているのと思われ、灰白色の噴煙が南東へ流れていました。赤外熱映像装置¹⁾でも S15 噴気孔に熱異常域がみられます。

・ 地震や微動の発生状況（図 2）

振幅のやや大きな火山性微動は 07 時 17 分から発生し 14 時現在も続いています。

・ 降灰の状況（図 5）

13 時までの聞き取り調査では、降灰は新燃岳の南東方向へ分布しており、宮崎県都城市付近でうっすらと積もっているのを確認しました。

- 1) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。



図 1 霧島山（新燃岳） 噴火の状況

遠望カメラ（新燃岳の南南西約 7km）では、ごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が、火口縁上 200mの高さで南東へ流れているのを観測しました。

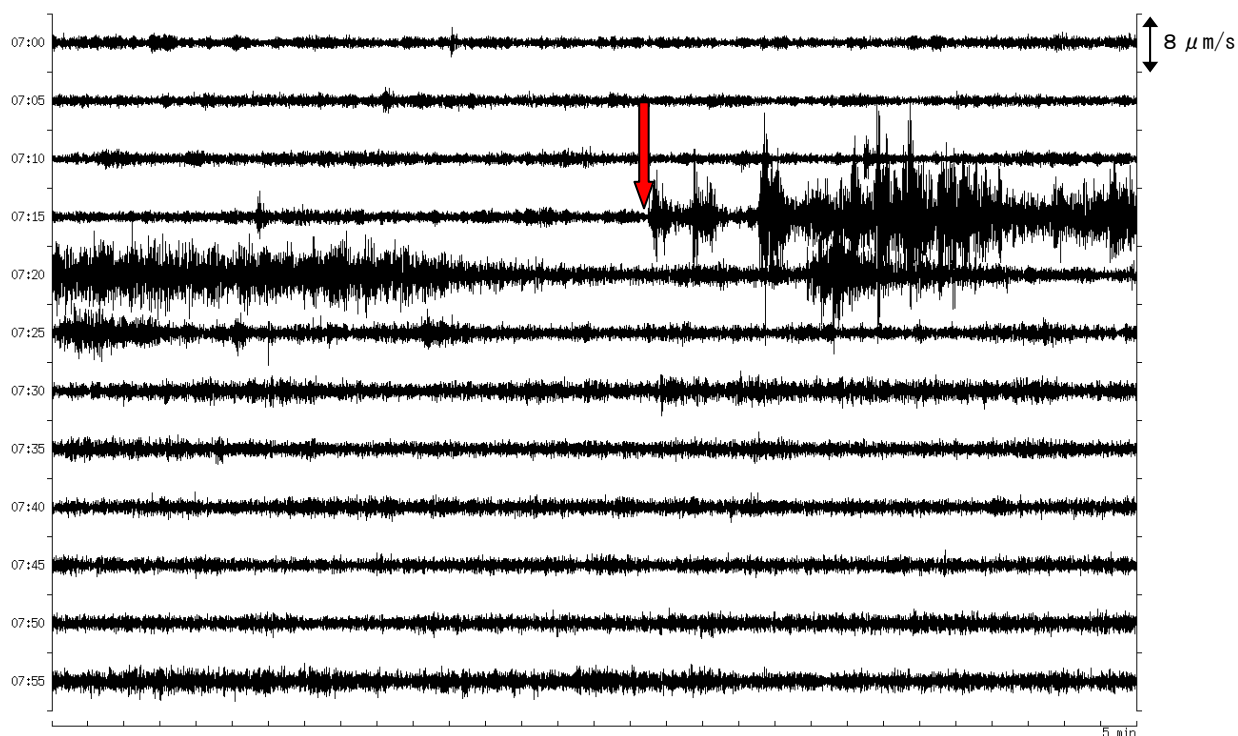


図 2 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う火山性微動

（新燃岳南西観測点南北成分、2011 年 1 月 26 日 07 時 00 分～08 時 00 分）

赤矢印が火山性微動の始まり



図 3 霧島山（新燃岳） 韓国岳上空から見た新燃岳火口の状況
灰白色の噴煙が火口縁上 200mの高さで、南東へ流れていました。

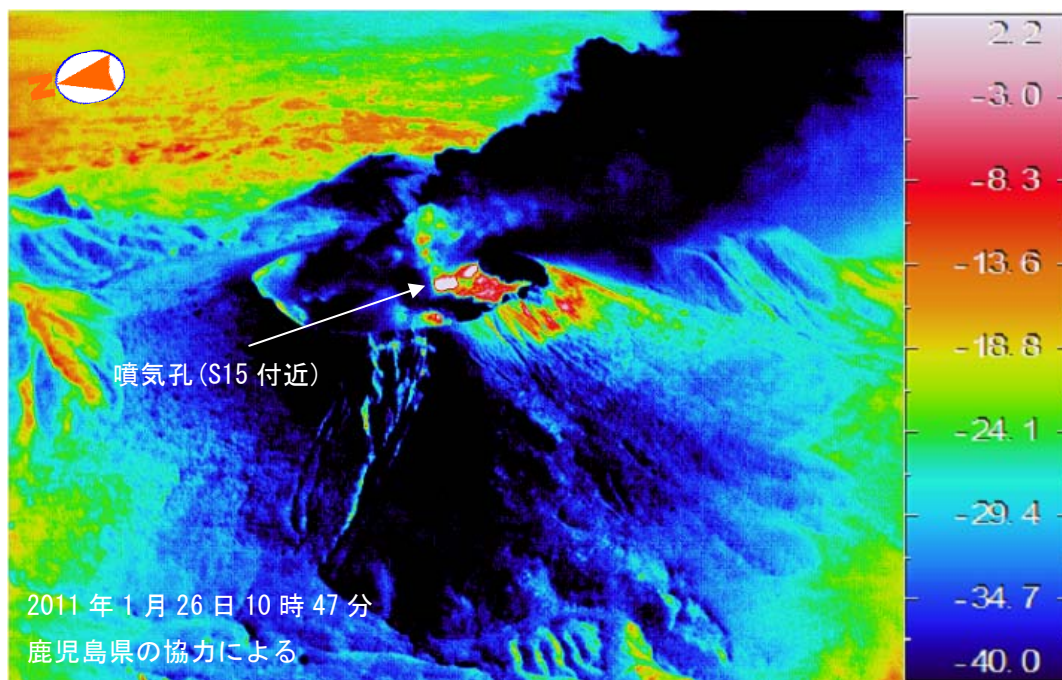


図 4 霧島山（新燃岳） 火口内の温度分布
S15 噴気孔には熱異常域がみられます。

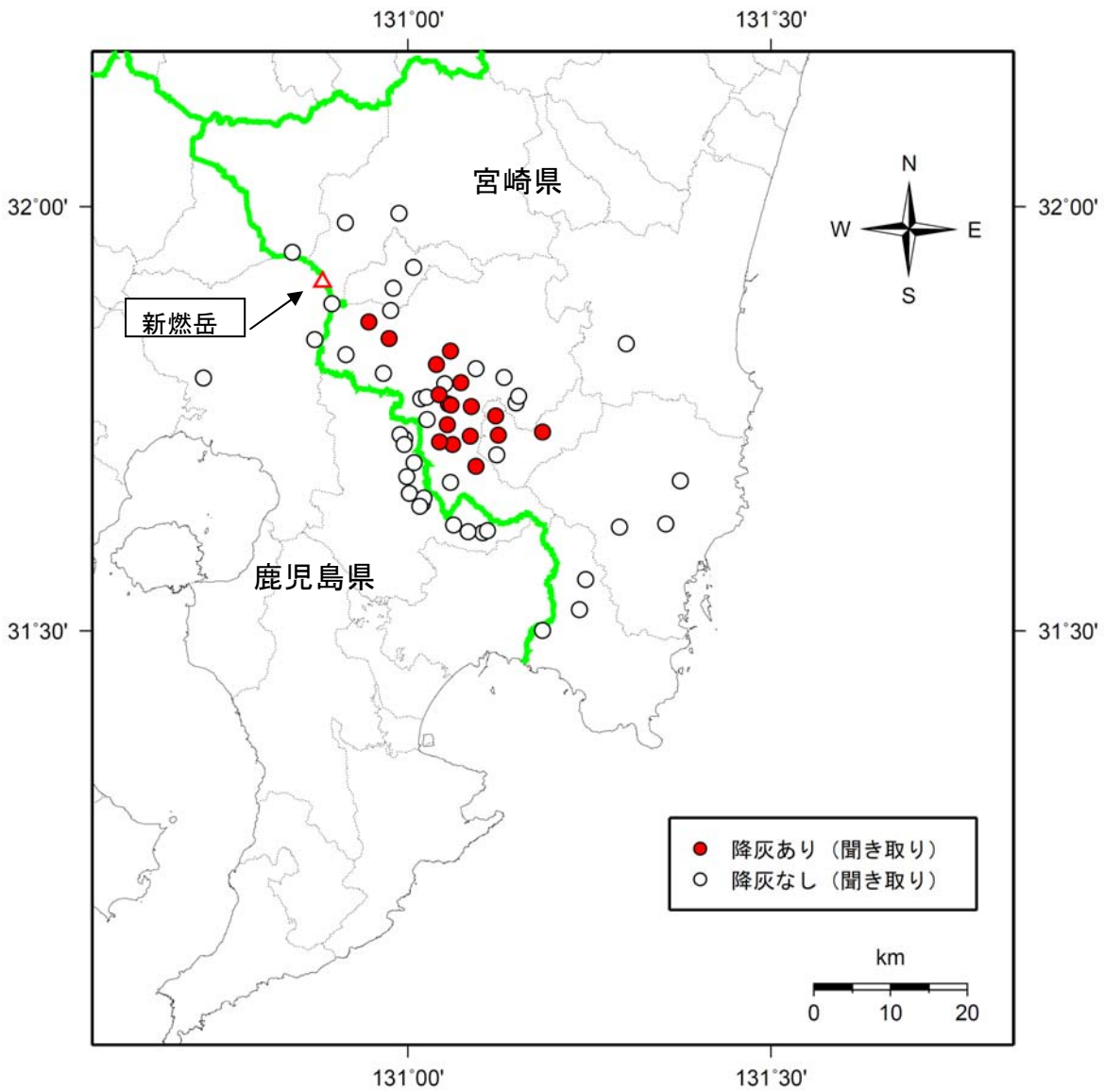


図5 霧島山（新燃岳） 降灰調査状況図
13時までの聞き取り調査では、降灰は新燃岳の南東方向へ分布しており、
宮崎県都城市付近で確認しました。